

音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<p>曲想と音楽の構造との関わりを理解するために必要な知識を身に付けること</p> <p>創意工夫を生かした表現を行うために必要な技能を身に付けること</p>	<p>曲にふさわしい音楽表現を自ら考え、創意工夫したことを自分の言葉で伝えること</p> <p>音楽のよさや美しさを味わって聴き、適切に批評できること</p>

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア「楽譜を見ながら歌う」ことの習慣づけが必要であり、楽譜上に示されている強弱記号等の基礎的な知識の定着に課題がある生徒がいる。</p> <p>イ元気よく歌うことのできる生徒が多い。しかし、落ち着いて考えたり、考えたことを言葉として表現したりすることに課題がある。特に正しい文字や文章を書くことが苦手な生徒が少なくない。</p>	<p>ア今楽譜のどこを注目すればよいかをわかりやすくするために、タブレット端末で譜面を配信し、書き込みするなどして示す。覚えていなかった基礎的な事項や新しく学習する語句等は、教科書やワークノートで調べて直接楽譜に書き込み、調べた教科書やワークノートにも必ず印を付けることで学習の軌跡を残すようにさせる。</p> <p>イ文章表現の基本的なパターン学習や、批評文等に最低限必要な語句の書き取りを随時行う。また、生徒が記述したものを読み上げたり、タブレット端末を活用して紹介したりしながら、表現のヒントを与える。</p>	<p>ア 通年</p>	
第2学年	<p>ア日常的に日本の伝統的な音楽に触れる機会が少ないこともあり、伝統的な音楽に関する知識の定着に課題がある。</p> <p>イ楽曲の表現に関して、詞の内容を十分に理解することが難しく、作曲者の意図を汲みながら主体的に表現の工夫を考えたり、考えたことを自分の言葉で表現したりすることに課題がある。</p>	<p>ア日本の楽器を実際に見せ、その音色を生で聴かせることで、日本の伝統的な音楽についての興味を喚起し、学習につなげる。今年度は外部団体を活用し、三味線の実技体験授業を実施する。</p> <p>イワークシートを活用し、まずは自ら考えた上で、他の生徒の考えを聞いたり、自分の意見を述べたりする機会を多くもつ。さらに、批評文等に最低限必要な語句の書き取りを随時行う。</p>	<p>ア 2 学期 3 学期</p> <p>イ 通年</p>	
第3学年	<p>ア多様な音楽とそれぞれの文化や歴史的背景との関係について、興味・関心をもって学習し、知識の定着が図られている。</p> <p>イ楽譜に示されている記号に関して、なぜそこでその表現が必要なのか、十分に作曲者の意図を理解し、自分で考えたことを表現することに課題がある生徒がいる。</p>	<p>ア音楽史の学習と平行して多様な音楽を鑑賞する機会を多くもつ。</p> <p>イワークシートを活用し、作曲者の意図やそれに基づく表現の工夫などを具体的に考え、実際に表現する際のイメージをパートやクラス全体で共有できるようにする。</p>	<p>ア 2 学期 3 学期</p> <p>イ 通年</p>	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・批評文や創作作品、ワークシートの記述などをタブレット端末で提出させ、添削したり、クラスの中で共有したりする。また、アンケート機能を活用し、クラスや学年みんなの考えや意向をその場で確認する。 ・歌唱などの実技を個々のタブレット端末で録画し、自分の演奏を客観的に振り返ることができるようにする。 ・Google Classroom にアップした音源で、個人でも随時練習ができるようにする。 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標設定とその成果の振り返りを毎時間行い、記録する。 ・比較的達成感を得やすい聴音を継続的に行ったり、創作や楽曲分析、鑑賞に時間をかけたりすることで、歌や笛の実技が苦手な生徒でも積極的に音楽の学習に取り組めるようにする。 ・ワークシート等に記入させる際には、必ず評価の観点を丁寧に説明し、適切に思考・判断・記述できるように配慮する。
---	--